

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ケアライフサポートトリぼん		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 6日		～ 令和7年 1月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29	(回答者数) 27
○従業者評価実施期間	令和7年 1月 17日		～ 令和7年 1月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 2日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	5領域に働きかけるプログラム(活動・レクリエーション)	<ul style="list-style-type: none"> プログラムの内容を「取り組み」「ねらい」「子供たちの変化」で記録し、次に繋げている。 毎月新しいプログラムを取り入れている。 自立を念頭にしたプログラムを立案・実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員全員が5領域の視点を持ち、個別支援計画書に基づいた支援を意識する。 職員間で支援内容を共有し、振り返りを行いながら支援の質の向上に努める。
2	縦割りによる他児との関わり(小1～高3まで一緒に活動)	<ul style="list-style-type: none"> 学年が上がるにつれ、リーダーや責任ある役割を任せ、サポート力や自主性・問題解決力を育てている。 下級生は上級生の行動を見て協力の姿勢やルールを守る大切さが自然に身に付くようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 責任感に縛られないように息抜きできる環境を整える。 年齢に関係なく「やってみよう」の姿勢を尊重し、成功体験や役割経験を積めるよう適切なサポートを心掛ける。
3	職員それぞれの愛溢れる支援	<ul style="list-style-type: none"> 情報共有や普段の会話でお互いの得手不得手を理解し、役割分担やサポートできる体制ができています。 こどもの気持ちや考えを理解しようとあらゆる手法で時間をかけて寄り添うことができる。 こどもの笑顔を一番に考え、成功と一緒に喜び、挑戦を応援し、安心して失敗できる環境を作っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援の成果や成功体験を共有する機会を増やし、職員間の支援力向上を図る。 職員同士で声を掛け合い、心身の健康に配慮した働きやすい環境作りを心掛ける。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動スペースが狭く感じる	<ul style="list-style-type: none"> 宿題をしている側で自由時間を過ごしているなど集中しづらい環境になってしまう。 中高生の利用が多い日は身体を動かす活動時に狭さを感じる。 整理整頓されたいるが、収納スペースが少ないため煩雑に見える。 	<ul style="list-style-type: none"> パーティションなどの仕切りを活用し集中できる環境作りを行う。 活動内容によっては市営体育館・公民館などの地域資源の活用も検討する。
2	日常生活スキルの幅広さ	<ul style="list-style-type: none"> 小1から高3までのこどもと一緒に集団活動を行うため、物足りなさや難しさが顕著に表れるときがある。個々に見合った内容での集団活動を提供するのが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 個々の発達段階に応じたスモールステップの目標を設定し、達成感が自己肯定感に繋がるように支援する。 必要に応じて難易度別のグループ活動も検討する。
3	発信・受信力	<ul style="list-style-type: none"> 各マニュアル・非常時の対応・対応の体制など保護者に周知徹底できていない。リマインド数が足りない。 関係機関との連携が必要最低限。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者向けの説明会(紙面含む)の開催。 関係機関や各連絡会の会議や研修会の参加。 虐待防止(身体拘束適正化)、感染症対策、安全計画、避難訓練、保護者・子供向けイベント等の委員会を発足し、組織的な取り組みを進める。